

令和2年度 学校評価報告書

教育目標	人間尊重の精神を基盤に、知・徳・体の調和のとれた児童の発達をめざす 一人間性豊かなたくましく生きる子の育成
めざす子ども像	お・・・おもいやりのある子 お・・・おちついて考える子 う・・・うんどうにはげむ子 だ・・・だれとでもはげましあう子

A：十分に達成されている B：相当程度達成されている C：達成がやや不十分である D：達成が不十分である

大項目	中項目	番号	具体的目標	取組と成果	評価	評価の観点・理由	課題・改善方策	
I 学校経営	①教育目標	1	児童や地域など学校の実態にあった学校教育目標が設定されている		B	B	保護者の93.4%は肯定的評価であり、否定的評価は4.9%、わからないが1.6%であった。	普遍的な学校教育目標に沿って、具体的な年次目標を策定している。
		2	学校教育目標に基づいた教育課程が編成されている	○学校教育目標に基づいた教育課程を編成している。また、授業時数を集計し教科の時数不足が無いようにしている。	B		○月別の授業時数を調べることで、進路の見通しをもち、指導内容を工夫できるようにしている。	○コロナ禍ではあったが、行事を工夫したり、取りやめたりすることで授業時数を確保することができた。
II 教育活動	②教育課程 学習指導	3	児童の学力調査等の結果を指導法改善に結びつけ、次の指導に生かしている	○校内研究のテーマを決め研修を進めている。	B		○研究授業を実施し、課題の解決と有効な指導方法について研修してきた。	○来年度は、コロナの影響も懸念されるが、本校児童の実態に沿った指導ができるようにする。
		5	「体力テスト」の結果を児童の運動能力や体力の向上に生かしている	○今年度は、コロナ禍において、体力テストは実施できなかった。○各学年が指導計画に基づき、実態に即した運動を実施している。	B		○体育では、基本の運動で体力の向上を目指し、いろいろな運動を取り入れた授業を展開している。	○来年度も、コロナの影響が懸念されるものの、可能な範囲で、児童の実態に沿った指導ができるようにする。
		7	視聴覚教材や教育機器などが整備され、授業に活用している	○タブレットや書画カメラを活用した授業が充実している。○学級新聞や社会新聞をタブレットを使用して作成している。	A		○言葉だけでなく、実際に目にする事ができ、児童がイメージしやすいので、効果的である。	○GIGAスクールに基づく取組を開始する必要がある。そのために、教員の研修を深める。
		8	体験的・問題解決的な学習、児童の興味・関心を生かした学習を推進している	○授業では、体験的な学習や問題解決的な学習を大切にしている。	B	B	○総合の授業や社会科の授業で、具体物を用いての学習を進めている。	○今後も、体験的な学習や問題解決的な学習を大切に取組を進めていく。
		9	個に応じた指導（個人指導・グループ指導、習熟の程度に応じた指導、興味・関心に応じた課題学習、補充的・発展的な学習、教師の協力的な指導等）を推進している	○学年によっては、算教科の少人数指導を行っている。○学年の枠を超えた活動によって、興味関心を高める内容を取り入れている。	B		○児童のつまずきを早期に発見し、復習学習を中心に学習支援をしている。○放課後教室を活用し、個に応じた学習内容で取り組んでいる。	○個に応じた指導を行っているが、今以上に人員を確保し、取り組む必要がある。
		10	授業や教材開発において外部人材を活用している	○コロナ禍のなか、十分に行えたとはいえない。	B		○本年度はできる範囲で実施してきた。	○地域教材として整理することができるようにしたい。

II 教育活動	③人権教育	11	地域の自然や文化財、伝統行事などの教育資源を授業に活用している	○コロナ禍のなか、十分に行えたとはいえない。	B	○コロナ禍で地域行事が縮小されているため参加できないことがあった。	○来年度は授業に活用できるようになることを期待している。	
		12	学校図書館の活用や読書タイムの設定など、読書活動を推進している	○朝の読書タイムと図書室の活用を進めた。	B	○図書委員会の年間計画とも連動して取り組むことができた。	○いろんな図書を児童に紹介することで興味関心を高める。	
		14	児童の実態を基に人権教育年間指導計画を作成し、計画的に実施している	○昨年度作成した年間計画をさらに充実させるために、教材の差し替えを行っている。	B	B	○学年や児童の実態に合った教材を選ぶ努力をしている。	○毎年教材の見直しを児童の実態や、昨今の状況に合ったものに仕上げていきたい。
		15	「なかまの集い」や「人権を確かめあう日」並びに日々の学習を通して人権感覚を育てている	○ハンセン病の学習や平和教育の学習に取り組んだが、集いは実施できなかった。	B	○朝の会や帰りの会など、日々の活動の中で人権についての話をするなどしている。	○毎月人権を確かめ合う日を意識して、人権感覚を養っていききたい。	
	16	教職員が校内外の研修会に参加し、人権教育についての理解や指導力の向上を図っている	○1学期は同和教育について研修する時間をもつことができた。	B	○人権教育と道徳の時間の関連性をよく考え指導していく必要がある。	○学習会的な機会を増やし、教員相互で話し合いをもつことで指導力の向上を目指したい。		
	④生徒指導	17	生徒指導に教職員が一丸となって取り組み、児童の問題行動等への対応を適切に行っている	○児童に分かりやすい、「大宇陀スタイル（学校のきまり）」を用いて、指導ができた。職員間でも共通理解が図りやすかった。	B	○学級によって指導内容がブレないように、職員間で意思疎通を図り、足並みを揃えて指導にあたる必要がある。	○問題行動が起こった際に職員間で報告・連絡・相談を行い、よりよい解決法を模索していくように努める。	
		18	豊かな人間関係づくりや規範意識の向上に向けた指導を行っている	○本校の課題であった、「廊下歩行」を新たに「大宇陀3つの約束」に組み込み、重点的に指導に当たった。	B	○児童アンケートより、廊下歩行についての自己評価が上がった。	○まだ、十分に意識付けが出来おらず、廊下を走る児童もいるので、次年度以降も継続的に取り組む必要がある。	
		19	校内の教育相談体制が整備されている	○OSCの保護者への周知が進み、利用が増えている。また、SC、職員間で意見交流を行い、児童理解を深めることができた。	B	B	○時間内でカウンセリングが実施できないときや発達検査が必要な場合は、SCが本校への派遣日以外に時間を設けて対応してくれている。	○OSCが派遣日以外に時間を設けて対応してくれている現状があるので、カウンセリング日の増加を要請していく必要がある。
		20	家庭・地域社会・関係機関等と連携しながら生徒指導を進めている	○不審者対応や家庭生活に課題がある児童の対応を市機関、警察と連携して取り組むことができた。	B	○学校外部との連携で事象が好転したケースが多く、今後も続けていく。	○児童の登下校については、ボランティアや見守り活動がなく、関係各所へ働きかける必要がある。	
	⑤キャリア教育	22	自立した社会人の育成をめざして発達段階に応じたキャリア教育を推進している	○キャリア教育と各教科の関連性について研修した。「児童の生活そのものがキャリア教育と結び付いている」ということを意識させることができた。	B	B	○個人ファイルを作成し、各学年でキャリア教育として学習することができた。	○日常生活の中で、児童が継続して関心をもてるような取組を今後も続けていきたい。

II 教育活動	⑥特別支援教育	23	校内委員会・特別支援教育コーディネーター・校内研修など校内支援体制が整備されている	○定期的に支援学級担任者会を開き、児童の実態を出し合い、個に応じた支援の方法を検討した。 ○県リハビリセンターや巡回アドバイザーの先生を招き、指導のあり方についてアドバイスを受け、指導に生かした。	B	○市の教育相談やスクールカウンセラーと連携しながら、子どもの実態把握をし、支援のありかたを考えることができた。 ○特別支援学級在籍の児童の原学級での学習体制について共通理解ができていなかったところがあった。	○外部講師の方を招いての研修を積極的に実施していく。 ○校内支援体制の整備および共通理解を行っていく。
		24	学級間・学校間の交流学習や共同学習が実施されている	○特別支援学校に通う、地域の児童と実際に会っての交流はできなかったが、プレゼント、歌などの動画、メッセージ交換を通して交流を行った。	B	○当該学年では、有意義な交流ができたが、コロナ感染予防のため全校児童との交流はできなかった。	○学級間・学校間の交流活動や共同学習の内容を工夫して、インクルーシブ教育を深めていきたい。
		25	個別の指導計画及び教育支援計画が作成されている	○個別の教育支援計画・指導計画を作成し、支援に役立てている。 ○前担任が次年度の個別の指導計画を立てておくことで、学年が変わるときの引き継ぎがスムーズだった。	A	○個別の教育支援計画・指導計画から、個に応じた、見通しを持った適切な支援を行うことができた。	○個別の教育支援計画・指導計画をよりよく生かすため、交流学級担任との共有をする。
III 管理・運営	⑦食育	26	児童の食生活等の実態に即した「食に関する指導の全体計画」が作成され、計画的に実施されている	○2年生で、給食センターに見学に行き、栄養教諭の方に食に関する授業をしていただいた。 ○保健給食委員会では、給食時に放送で食に関することについて話をしている。	B	○給食時の放送により、食に関心をもってきている児童もいる。 ○コロナ禍で放送を静かに聞くことができています。 ○エプロン・マスク・帽子等の着用が乱れているところがある。	○給食の片付けのマナーについて共通理解を図り、例年に加えて、コロナ禍における新たな食事のマナーについて指導を行う。 ○栄養教諭による食育指導を続けて行う。 ○給食時の衛生指導を徹底していく。
		27	学校の安全を確保するための計画や危機管理マニュアルが作成され、実施されている	○学校安全に関わる文書をまとめ、今年度版の危機管理マニュアルを作成できた。	A	○危機管理マニュアルを各学年に配布し、周知することができた。	○各学年に配布できたが、内容の共通理解が十分できていない。来年度は配布する際に、内容を説明する。
		28	学校防災計画を作成し、教職員及び子どもの安全対応能力の向上を図るための避難訓練等を実施している	○各階に避難経路の掲示を行い、児童の意識を高めることができた。 ○AED講習、職員の引き渡し訓練など職員研修に力を入れた。 ○各学年で基本の避難経路を確認し、様々なケースを想定した指導を行った。	B	○コロナの影響で、全体で集まることができず、各学年の対応になってしまった。 ○引き渡し訓練を昨年度は保護者をまじえて実施できたが、今年度は職員のみでの訓練になった。	○一斉放送による事後指導を行い、児童用「ふり返しカード」も活用していきたい。 ○要支援児童が避難する時の施設・設備面も含めた体制作りについて共通理解を図る。
III 管理・運営	⑧安全管理	29	校内や通学路の安全点検が実施されている	○分団会や下校指導で、通学路の安全点検を行っている。 ○月1回、全職員で校内の安全点検を実施している。	B	○点検で問題があった箇所が改善されるまでに時間がかかったり、改善に至らなかったりする箇所もあった。	○校内及び通学路の安全について定期点検を引き続き行っていき、職員の共通理解を図っていく。

III
管理・運営

	30	家庭や地域の関係機関・団体と連携して、学校や児童の安全を確保する取組を進めている	○今年度は感染症対策の観点から、地域の関係機関・団体を呼んでの講演会などが実施できなかった。	B	○外部機関への依頼も考えていたが、感染拡大防止のため中止にせざるを得なかった。	○次年度は、感染症対策を踏まえ、可能な範囲で外部機関との連携を図っていききたい。 ○以前から課題にあがっている登下校時のボランティアによる見守り体制も整えていきたい。	
⑨保健管理	32	学校保健計画を作成し、健康診断が実施され、事後の措置が適切に行われている	○学校保健計画が作成され、計画に沿って進めている。 ○定期的に健康診断を実施し、その結果を直ちに家庭に連絡している。 ○けがや病気については、担任と養護教諭が連絡を密にして対応している。	A	B	○保護者アンケートの結果、保護者の96.8%は肯定的評価であった。	○引き続き、迅速に家庭に知らせ、保護者と子どもの実態を把握できるようにしていきたい。 ○担任と養護教諭が連絡を密にし、早期対応に努めたい。
	34	心のケア、健康に関する相談活動の体制が整備されている	○心のケア、健康に関する相談で保護者の希望が多く、スクールカウンセラーに継続的に対応してもらってきた。	B		○スクールカウンセラーの来校が月2回程度のため、子どもや保護者の精神面をサポートしきれない面がある。SCの派遣増の要望を行っている。	
	35	日常の健康観察や疾病予防、子ども自己健康管理能力向上のための取組を進めている	○身体測定・体重測定時に健康管理や完成症予防に関わる指導を行っている。 ○児童への生活アンケートを実施し、実態把握に努めた。	B		○児童アンケートの結果を基に、課題を見付け指導に繋げる。	○今後も児童の健康管理能力向上のため、児童アンケートを実施し、その結果を基に保健指導等を行っていく。 ○児童の実態から課題を見付け学校保健委員会を開催し、啓発方法を考え、参加者増を目指す。
	36	環境衛生保持のため、日々の清掃活動向上の取組を進めている	○清掃活動推進計画に基づいて、日々の清掃指導に取り組むことができた。	B		○掃除に対する意識がまだまだ低いように感じた。	○掃除方法、掃除用具の正しい使い方等の指導を、視覚に訴える方法で取り組んでいきたい。
⑩組織運営	37	校務分掌組織が適切に編成され、有効に機能している	分掌組織の一部が有効に機能依していない。	B	B	職員一人が担当する分野が多い。 情報が共有される場合が多くなった。しかし一部で、報告が個人の段階で留められる場合もあった。	組織のスリム化と同時に作業の効率化をはかる。
	38	教育活動が円滑に行われるよう、校内予算が適切に執行されている	通常校内予算に加えて感染予防のための特別予算についても適切に執行された。	A			今まで通り適切な予算執行と節約に努める。
	39	学校事故への対応を適切に行っている	大きな事故がなかったがヒヤリハットがいくつかあった。	B			日頃から注意喚起としての指導を行い事故の未然防止に努める。連絡体制を明確にし、情報共有を確実に行う。
	40	公文書の作成・収集・保管、個人情報保護など情報管理が適切に行われている		A			より安全な公文書の保管の徹底

Ⅲ 管理・ 運営	⑪保護者・ 地域との連 携	41	P T A、地域団 体との連携が十 分にとれている	コロナ禍のなか、例年 の学校からの通信や メール等だけでは情報 提供を十分に行えたと はいえない。	B	B	本部役員がコロナ禍 で活動が制限される 中、協力しながらで きる活動について企 画運営していただ いた。	保護者に、より安全 に感染予防をしなが らの児童の学習や生 活場面を知ってもら う機会を検討する。
		42	学校から保護 者・地域に向け た情報提供が適 切に行われている					
		43	幼小連携、小中 連携など学校間 の円滑な接続に 関する手立てが 講じられている					
	⑫施設・ 設備	44	施設・設備の安 全・維持管理の ための点検が実 施されている	毎月担当者を変えなが ら全職員で、様々な施 設設備の点検を実施し た。	A	A	指摘があった場所 は、その月内で修繕 を完了することがで きた。	
⑬研 修	45	校内研修のテー マや内容が学校 や児童の実態に 即したものに なっている	聴くことを大切に した取り組みは実態 に即したもになって いる	B	B	昨年の教室の事実 をもとに、課題を共 有する研修を実施 した	ペアからグループへ ステップ・アップし たいが、タブレット を使用したアクティ ブ・ラーニングの具 体的なかたちが見 えない	
		校内研修の組織 が整備され、教 職員が意欲的に 取り組んでいる	1学期にアクティ ブ・ラーニング研 修を実施し、コ ロナ禍にあつても 、聴き合う授業 づくりに努めた	B		指導案が授業デザ インというかたち で簡素化され、実 質的な準備や振り 返りに力を注げた	もっと互いの授 業を気軽に見合 って学び合いた いが、持ち場を 離れることが難 しい	
		校内研修の内容 が教職員の職務 能力の向上に なっている	今年は学年部を ふたつに分けて 、低学年高学年 の2本の授業提 供を受け、外部 からの指導者を 招かず研修を行 った	B		学年部ごとの振り 返りが丁寧にて きて、具体的な 取り組みや悩み を共有できた	振り返りの後に 、研究授業でな くてもお互いの 具体的な取り 組みを見合え るようになれば よい	